

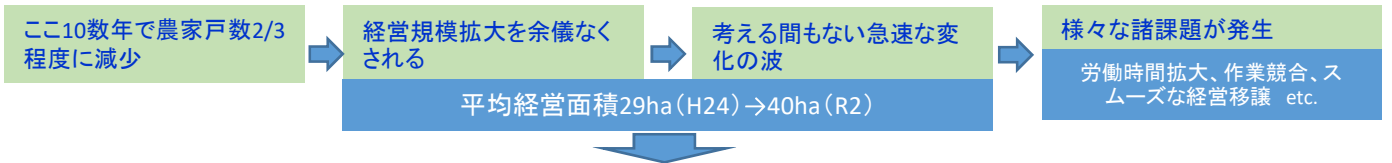
ゆとりで次代へつなげる地域農業の確立

みんなで築こう豊かな富丘

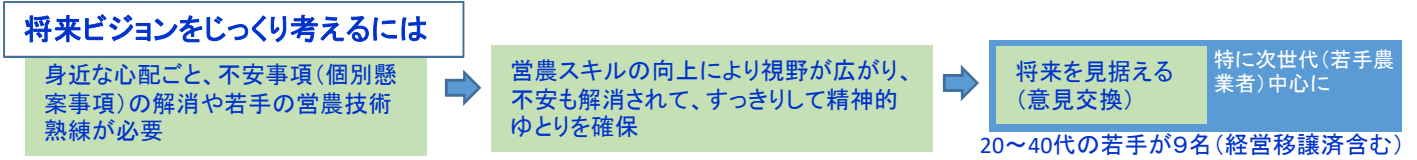
対象：富良野市富丘 10戸1法人

富良野市街地東部に位置する富丘地区は、標高380～410mの丘陵地で、麦類等の畑作物、かぼちゃ、たまねぎ等の露地野菜が作付されている。富良野市では、ここ10数年で農家戸数が減少し、それに伴い経営規模拡大が急速に進んでいる。富丘地区をそのモデル地域と捉え、この流れのなかで発生した諸問題の解消と、ゆとりある将来ビジョンの構築を、特に次世代を担う若手農業者を対象に展開した。

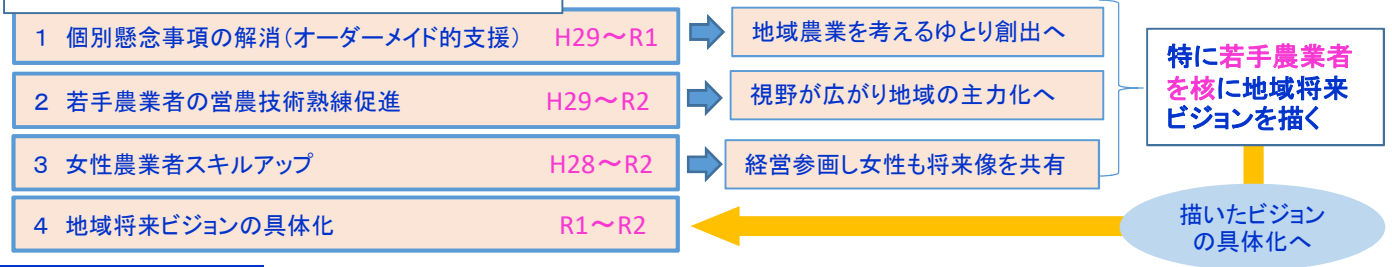
1 活動の背景



立ち止まって将来ビジョンをイメージし具体化が求められる



5年間の活動の4本柱(具体的推進事項)



2 活動経過

1 個別懸念事項の解消(オーダーメイド的支援)

年月日	普及方法	内容	のべ人数
H29～R1	個別対応	オーダーメイド的対応によりすべての懸念事項が解消された。	75人

2 若手農業者の営農技術熟練促進

年月日	普及方法	内容	のべ人数
H29～R1	懇談会と研修会	若手農業者による将来ビジョン絞り込みと実践、及び営農技術向上に向けた研修。	46人
R2 3月15日	研修会	将来ビジョンや個別懸念事項の実践事項の共有と営農技術向上に向けた研修。	9戸

3 女性農業者スキルアップ

年月日	普及方法	内容	のべ人数
H28～R1	研修会	夏期視察研修と冬期スキルアップ講座の実施。	85名
R2 11月26日	研修会	近年の気象変動についての講習会と情報交換。	9名

4 地域将来ビジョンの具体化

年月日	普及方法	内容	のべ人数
R1	個別対応	4つの具体化事項についての取組。	15名
R2 5月上旬～	個別対応	4つの具体化事項についての取組。	16名

3 成果の具体的内容

1 個別懸念事項の解消(オーダーメイド的支援) (抜粋)

- たまねぎ中耕効果の検証…何回やればいい?いつやればいい?
- かぼちゃのキュアリング方法の改善…貯蔵腐敗が懸念事項

2回目の中耕は根を切って、かえてマイナス効果では?



かぼちゃの腐敗が慢性的な課題。短時間で乾かしたい。



5月末の1回がベストだと判明。すっきりした。

暖房と土間へのビニル敷設を前提とした差圧乾燥が有効とわかった。

個別懸念事項が解消され、すっきりし、心置きなく将来のことを考えることができるようになってきた。生産性のロスが減るなど、農業所得面でもプラス効果が得られた。さらに解消事項は地域内外でも共有され、波及した。

2 若手農業者の営農技術熟練促進

- 若手農業者意見交換会…みんなであるべき地域の将来を考えよう
- また、将来に向けて総合的な営農技術を高めたい

①地域将来ビジョンを話し合う場として。



②営農技術力向上の場として。



若手代同士で将来について遠慮なく意見を交わし合い、**具体化すべき4つのビジョンが絞られた。**

5年間で病害や土壌への見識が深まるとともに、地域的に取り組む必要があることが実感された。

- ① 何を作ってもとれる足腰の強いほ場づくりのため「**土づくりの推進**」
- ② 今後は家族内での総力戦になるため「**家族内技術力平準化**」
- ③ 降水量増加などに対応可能な技術改変が必要「**気象変動に対する技術対応**」
- ④ 重要病害に対して地域ぐるみで向き合うための「**重要病害抑止への取組**」

「4 地域将来ビジョンの具体化」へ展開

波及効果

高台地区の他地域(麓郷、布礼別の若手からも参加要望あり、R3からJA青年部東部支所を対象とする

3 女性農業者スキルアップ

- 夏期視察研修

実践的な研修と体験型で楽しく学べた。



- 冬期研修会

身近で知りたかったことを学べた。



5年間でかぼちゃを中心にたくさんのことを学び、これらを家庭内共有するようになった。

最近では雑草の見分け方、収入保険制度、気象変動について学んだ。もちろん家族内で共有。

女性の技術的基盤が形成され、経営参画が進み「家族内技術力平準化」「気象変動に対する技術対応」に向けて具体的な提案ができた。

4 地域将来ビジョンの具体化

- 土づくりの推進…どこで何を作っても採れるほ場にしたい

地域の土壌特性を把握し改善したい。



- 家族内技術力平準化…規模拡大へ総力戦で臨む

どの作業も家族内のだれもが対応できるようにしたい。



地域土壌マップを作成し今後の改善方針が明確になった。化学性改善から着手した。

5年前と比べてかなり作業分担が進んだ。

- 気象変動に対する技術対応…ひと工夫が必要となる

6月の降雨が増え、かぼちゃの畦間ロータリ処理後、なかなか防除できない。



- 重要病害抑止への取組…地域ぐるみの対応が必須

苦しめられた小麦なまぐさ黒穂病を抑えたい。



地域的にロータリ処理前の防除が増えた。突起果も減少した。

地域で発生状況や防除方法を共有し、R1には発生がゼロとなった。

4つの地域ビジョンが徐々に具体化した。今後もこれらの課題を意識しながら、家族や地域ぐるみの取組が継続していく流れができた。

4 今後の対応

本重点課題はR2で終了とする。

若手農業者の営農技術熟練については「JAふらの青年部東部支所」を対象とし継続の見込み。その他の具体的推進事項は生産部会や地域の要望に応じた対応を実施していく。